



森を知る 木っかけ「木育」

リポーター
あだち 留美子さん (三階町)

市内小学校での親子活動の様子(体育)

木育活動に取り組む一人



NPO法人 ナチュラルバック
ヤード ファクトリー
代表理事 足立留美子さん

小学校や子ども会などで木工教室を開催して「木に触れる・使う・知る」の3つの体験をしてもらっています。親子で熱心に取り組む姿が印象的で、この体験

がきっかけで木工やDIYに目覚めた家族もいます。体験のなかでは15分ほど森林についてお話ししています。参加者は森林のことを知って暮らしを見つめなおしたり、丹波篠山の良さを再発見したり。篠山市では市民団体が木工クラフトなどを実施した場合に活用できる補助金があるので、PTA活動におすすめです。

「木育」はとても奥が深く、生涯にわたって必要な教育です。地球上に存在する生き物は、森林の恵みなくしては生きていけません。木は酸素を作りだし、その恩恵を受けて呼吸ができています。

篠山市は里山や森林に囲まれ木育には抜群の環境であり、行政の取り組みは国内でもトップクラスです。

〈木育の概念〉

知育 自分で考える力

- 木を知る
- 山を知る
- 木のおもちゃで遊ぶ



徳育 心を育てる

- 木に触れる
 - ・手ざわり、香りなど
 - ・木製品とのつきあい方
- 施設や遊具の木質化
 - ・たきこども園など
 - ・ちるみゆー城
 - ・机、イス、おもちゃ導入

体育 体を動かす

- 山登り
- 薪割り
- 自然体験
- 木工クラフト
- アスレチック



「子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みです。それは子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。(北海道庁)



木育ってなに

木育は2004年に北海道で始まりました。「知育・徳育・体育」の3つの要素に、木の特徴を活かした教育を取り入れ、木への意識を高めて木材利用につなげたり、木の良さを理解したりする心を育てます。

一般的にはまだなじみのない言葉ですが、篠山市ではどんな木育活動が行われているのでしょうか。

篠山市では小学校に篠山産材の木の机やイスを導入したり、幼稚園・保育園・認定こども園では木製おもちゃが導入されたりしました。

味間認定こども園では篠山産ヒノキやスギを利用して内装を木質化。4月には新たに木造平屋建の「たきこども園」が開園し、木の温かみある施設が増えました。

幼児期から木に触れる環境や教育が整って木育が進んでいること感じます。

木材の地産地消

2020年、東京オリンピック開催の影響で建設資材の需要が高まっています。

特にオリンピック特需で鋼材が不足し、もしも「たきこども園」が鉄骨造だったら

3月に竣工できなかったかもしれないそうです。

篠山市は地域で木材の調達が可能です。木造にすることは外部に依存しない「調達の強さ」につながります。地域の木を使って建物を建てることは、森林所有者が潤い、地域経済も活性化していきます。

5月5日は「里山の日」

篠山市は5月5日を「里山の日」と定め、里山と親しむ活動を推進しています(10ページに詳細)。

篠山チルドレンズミュージアムの館長でもある垣内敬造さんがおすすめる、初心者でも楽しめる山の遊び方は「生きもの探し」。ちるみゆーの「ごんた山」に生きものを探して森に入ると子どもたちはハイ状態になり、いちばんピークに達するのは、見晴らしのいい所に登りつめ、「ヤッホー」と叫ぶ時。昔からある遊びは、現代っ子にも親しまれているようです。



山のポーズ！
里山の日
あそびに
きてね！

ふるさと森づくり
連携ネットワーク会議・
木育部会
かきうちけいぞう
部長 垣内敬造さん

ふるさと森の課題

「里山の日」を市民に広く知ってもらうと、5月中は市内各所で森林と親しむ「GO-GO-Go」とやまの「日」イベントが開催されます。

昭和の時代、子どもの遊び場になっていたのは山や川。裏山の雑木林で虫を採ったり、秘密基地づくりや探検ごっこをしたり。

「田舎の空気はおいしい」と言われるゆえには、木々たちが光合成で二酸化炭素を吸収して酸素を放出し、空気を循環してくれるからでしょう。

篠山で山登りを楽しむのは都市部からのお客さまが多いそう。都会は木々が少なく空気をきれいにするには力不足、本能的に美しい空気を求めて山に登るのかもしれない。しかし案外、市民の方は身近にある里山に入っていないのです。

「里山の日」には、子どもたちが山で遊んでいた時代を取り戻し、次世代まで森を守り続けてほしいという願いが込められています。

今年は長いゴールデンウィーク。1日だけでも山に足を運んでみませんか？